

## 「K」を誇りに その2

### ★ある3年生にとっての関東大会

陸上競技につきものの故障。県新人のファイナルに残った200mの井ノ川もハンマー、やり投げの中村も応援に来ていた。やはりみな故障に苦しみ、悔し涙をのんだ。

ハンマーとやり投げをこなす中村選手と話す機会があった。彼は関東の槍投げをじっと見つめていた。

中村は県新人でハンマー8位、やり投げ9位と健闘した。

肘と腰の故障は癒えずに県大会を迎え、無念であったと。本当なら自分もここに出場できたかもしれないと、その悔しさをにじませていた。

しかし、彼は大学に進学してもやり投げを続けたい！と熱意を持って語ってくれたのだ。私は非常にうれしくなった。

これこそが高校スポーツ、春高陸の原点であると思う。

どんなレベルでもいい。競技を愛し、チームを誇りに思う心を育めた事。

それだけでも春陸の大きな目的を果たせたと思う。先輩冥利につきる。

### ★春陸の過去と未来

私は高校時代から、関東に来るたびにプログラムを楽しみにしている。

プログラム記載される**歴代優勝高校**を見て、ぞくぞくするのだ。

年	西暦	期日	開催地	男子		女子	
				優勝校	得点	優勝校	得点
1	1948	昭和 23. 5 / 8. 9	練馬	熊谷	28	菅野	45.5
2	1949	24. 7 / 4. 5	宇都宮	早稲田	36	松戸	18
3	1950	25. 7 / 1. 2	水戸	茨城	25	川越	21
4	1951	26. 6 / 23. 24	千葉	高崎	31	春日部	29
5	1952	27. 7 / 5. 6	千葉	高崎	33	熊谷	18
6	1953	28. 6 / 27. 28	前橋	春日部	28	熊谷	22
7	1954	29. 6 / 26. 27	大宮	神奈川	33	宇都宮女子商	23
8	1955	30. 7 / 2. 3	宇都宮	栃木	30	高崎市立女	36
9	1956	31. 6 / 30. 7 / 1	千葉	千葉	48	松山女	34
10	1957	32. 6 / 29. 30	水戸	茨城	37.5	熊谷女	40
11	1958	33. 6 / 28. 29	甲府	山梨	77	高崎市立女	26
12	1959	34. 6 / 27. 28	大宮	埼玉	30	飯能	24
13	1960	35. 6 / 25. 26	立川	東京	39	宇都宮女子商	24
14	1961	36. 6 / 23. 24	前橋	群馬	69	越ヶ谷	25
15	1962	37. 6 / 29. 30	藤沢	神奈川	44	宇都宮中央女	61
16	1963	38. 6 / 27. 28	宇都宮	栃木	57	熊谷	49
17	1964	39. 6 / 27. 28	水戸	茨城	46	熊谷	45
18	1965	40. 6 / 27. 28	千葉	千葉	46	熊谷	51
19	1966	41. 6 / 24. 25. 26	甲府	山梨	53	宇都宮女子商	59
20	1967	42. 6 / 16. 17. 18	立川国立	東京	29	熊谷	31.5/6

春高は昭和27年に総合初優勝が始まり、合計で9回優勝している（関東8都府県、南北区別なし）のだ。

これは列記とした事実であり、誇るべき伝統である。

ちなみに第11回の総合77点も大会歴代最高得点である。(1位6点制)

入賞種目のほとんどを3位表彰台以内でおさめた。まるで東部大会のような得点。大木先輩、秋本先輩を中心に4種目優勝。

秋本さん、大木さん、石井さんはそのまま下関インターハイで入賞および優勝を果たした。

#### 第11回関東高校対抗選手権大会

100	②	11.3	大木 茂男
200	①	23.0	大木 茂男
400	③	53.4	針ヶ谷哲夫
110H	②	16.4	山野井長治
110H	③	16.4	大木 茂男
200H	②	27.4	山野井長治
4×200	①	1.35.9	兼子、針ヶ谷 助川、大木
走幅跳	②	6.68	石井 弘道
三段跳	②	14.33	石井 弘道
砲丸投	①	13.52	秋本 久次
円盤投	①	44.94	秋本 久次
円盤投	③	38.43	金子 信夫
やり投	①	53.91	佐藤 政宏
やり投	④	46.98	中村 孝夫
保投	②	49.90	折原 悦夫
保投	⑤	46.83	関根 侑

#### 第11回全国高校対抗選手権大会

100	⑥	11.2	大木 茂男
三段跳	②	14.82	石井 弘道
円盤投	①	47.29	秋本 久次

どうしても優勝がクローズアップされそうだが1965年の9回目以降、総合2位3位も幾度かある。(最近では10年前の奥岡主将と2005年。千葉関東は総合3位)

ただあまりにも輝かしい歴史があると、若手は臆してしまうのか・・・？  
春高にいたって呪縛はない。

元来、自分が好きでやっているのが春日部高校。強制やスポーツ入学もない。そんな部風は立ち上げ以来、何の変化もないのだから。逆に私はいつも自慢する。「オレは普通だけど、うちの仲間や先輩、後輩はすごいんだぜ！」・・・

★「K」を胸に

胸につけた「K」を誇りに思う気持ちはいつだって変わらない。まさに今、戦っている後輩たちを誇りに思う。

全国を獲る者もいるが、じっくりと身の丈で競技を楽しむ事も許される。そういった様々な選手の混在する独特の世界観をもつのが春高陸上部。そんな「春陸」も、もう100年を迎えようとしている。



「K」を胸に、今年は「青木 涼真」が全国の舞台で激走する。

和歌山インターハイへの道 あと40日

筆 野本順一

